

活 用 技 術

平成 24 年度

フェロモントラップを利用したアカヒゲホソミドリカスミカメの地域発生予察法		
[要約] <u>コシヒカリ</u> を対象とした <u>アカヒゲホソミドリカスミカメ</u> の <u>地域的な発生予察</u> には、7月前半の <u>フェロモントラップ</u> 誘殺数調査が有効である。		
農業総合研究所作物研究センター 栽培科	連絡先	TEL 0258-35-0836 FAX 0258-35-0021

[背景・ねらい]

斑点米カメムシ類はイネの重要害虫であり、現在、市町村等での発生予察ではすくい取り法により調査が行われている。しかし、この調査法は調査精度や労力の点で改善が必要とされ、また、地域の防除指導に有効に活用するためには、より早い時期に発生量を予測できる手法が求められる。アカヒゲホソミドリカスミカメではフェロモントラップの利用が可能であり、また本種成虫は出穂前の水田にも分布することから、この特徴を利用して早期に予測するための発生予察法を示す。

[成果の内容・特徴]

- 1 7月前半のフェロモントラップ誘殺数により、出穂後のコシヒカリ（出穂期：8月前半）のフェロモントラップ誘殺数をおおよそ予測できる（図）。
- 2 1地域当たりの調査ほ場数は12程度とする。調査期間は7月初めから2週間であるが、粘着板の交換が必要なため、誘殺数は1週間ごとに調査する。
- 3 2週間の総誘殺数の平均値を発生量評価基準（表）あるいは、当該地域の過去の誘殺数と比較し、発生量を評価する。

[成果の活用面・留意点]

- 1 市町村等での発生予察に利用する。調査ほ場は、ほ場環境や品種、地域的な偏りがないうよう、地域の予察調査ほ場から選定する。
- 2 トラップの設置場所は水田内畦畔際でよいが、道路や水路と接した場所ではなく、水田間の畦畔とする。
- 3 トラップの種類や設置方法など、調査の詳細は作物研究センター、病虫害防除所に照会する。

[具体的データ]

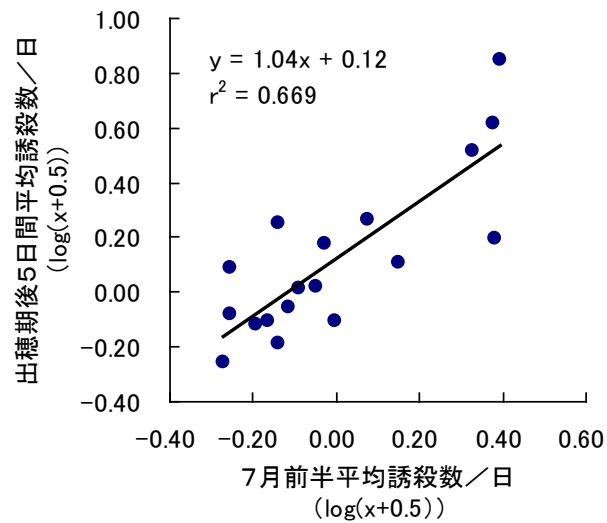


図 7月前半のフェロモントラップ平均誘殺数と出穂期後5日間のフェロモントラップ平均誘殺数の関係

注) 富山県、山形県のデータを含む。出穂期後5日間の平均誘殺数は「コシヒカリ」または「はえぬき」。

表 フェロモントラップ誘殺数による発生量評価基準

調査時期	発生程度別誘殺数			
	少	中	多	甚
7月前半(2週間)	≤20	≤50	≤80	>80

1地域の平均誘殺数.

新規フェロモン剤(チューブ剤)用に、旧剤(ゴムキャップ剤)のデータを読み替えた誘殺数.

発生程度(出穂後のコシヒカリの発生量をめやすとした)

少:「防除のめやす」を超えるほ場はほとんどない

中:「防除のめやす」を超えるほ場が一部ある

多:「防除のめやす」を超えるほ場が半数程度

甚:「防除のめやす」を超えるほ場がほとんど

[その他]

研究課題名 : フェロモントラップを基幹としたアカヒゲホソミドリカスミカメ高度発生予察技術の開発

予算区分 : 実用技術開発事業 (公募)

研究期間 : 平成 21~23 年度

発表論文等 : なし